

平成25年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

学校名	蟹江町立新蟹江小学校	氏名	佐古 亜希子
-----	------------	----	--------

1. 印象に残る写真2点

● 「一生懸命作ったね！」



アカチの小学校。子どもたちと一緒に取り組んだ折り紙が完成。何でもやりたい、やりたいと思う子どもたちの姿にパワーを感じた。

● 「GHANA」



私の考えていたガーナ！吸い込まれる音楽にダンス。
万歳国際学校！！

2. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

(特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

「ガーナを肯定的に見てこよう」と目標を立てて出発しました。まずは、このような機会を与えてくださった方に感謝しています。肯定的にとらえることは経験し、見ないと分からないことが多いです。2週間という短い時間でしたが、ガーナ人の良い所が目につくようになりました。時間にルーズなことも2週間いるとなんとかなくこれもあり??と思えるようになりました。じゃあ、次にこれをどのように子ども達に伝えていくのが自分にとっての課題だと思います。自分は見ても聞いて感じてガーナをとらえることができましたが、それができない周りの方にどう伝えていくのか、責任の重さを感じます。私は数十年後のガーナにとっても興味があります。これはガーナに希望を感じたから。教育制度、産業、国民のパワー、色々な視点から数十年後のガーナ

は発展するはずで、これを子どもたちには伝えていきたいと思っています。可能性を感じる国が周りにはいっぱいあります。知ることから始めて、行動に移せる子どもたちを育てていきたいです。現地の研修への達成度に満足することなく、次へのステップを考えていきたいです。

3. 訪問国から学んだこと（気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど）

（1）柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

「行かなきゃ分からない」これを一番に感じました。ガーナを肯定的に出会うってどういうことだろう？と思い、出発しました。ガーナでの生活を1日1日終えるごとに自分のガーナへの見方が変わっていきました。ガーナ人は気さくな方ばかり。目が合えばいつもニコニコして、手を振り、声をかけてくれ、老若男女みんなとても人懐っこかったです。心底明るく、パワーのあるガーナ人。そして時間を気にせず、のんびりしているところがなぜか憎めませんでした。このようなこと全てがまとまって、平和な国になっているような気がします。まだまだ可能性も感じます。行かないと分からない国民性。ガーナに入れば誰もが好きになる！ガーナにはこんなパワーがあるような気がします。

（2）柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

ガーナはとても遠い国だと思っていました。しかし、たくさんの日本人がガーナのため、日本のために、熱い思いを胸に走り回っていました。JICAの青年海外協力隊として、ガーナの子どもたちのために授業研究をする方、女性の働く場所を確保するために技術指導をする方、シニア海外ボランティアとして自分の夢を生徒と追い続ける方、専門家として自分の得意な分野で持続可能な団体を作る方、色々な方を拝見させていただき、ガーナ国との繋がりが見えてきました。ガーナ人も日本人もお互いを知り、認め合う。これこそが2つの国が繋がっていくということだと感じました。

（3）柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

貧富の差は少なからず日本にもあります。もちろんガーナはもっと深くあるように思います。学校を見学させていただいたとき、ホテルに入ったとき、町を歩いたとき、ちょっとした場面でも貧富の差を感じました。

日本では小学校・中学校と同じように教育を受ける権利がどの地域にいても平等にあります。しかし、ガーナでは……。まだまだなのかなと思います。日本でもこんな時代があったはずで、私はガーナの教育制度をどうにかしないと、と思っています。どうにかということが今の自分にはまだ見えてきません。日本の教育現場で、目の前の子供達と全力に向き合うことで、その答えが見つけられたらいいなと思っています。

4. JICAの国際協力事業の「良い！と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

「良い！と思ったところ」

- ・教師海外研修そのものが素晴らしい取り組みだと思う。このような経験は今回のような研修ではないとできないので、私たち教師の伝達できる環境を大いに生かして行きたいと思う。
- ・教師海外研修に関して、NIED・国際理解教育センターの協力で学び方、指導の仕方などを伝授していただけるので、視野が広がると思う。

- ・ JICA の取り組みはどれも持続可能ということをポイントにおいて支援されていることはすごい。これぞ本物の支援だ。

「今後あるといいなと思う視点」

- ・ どの取り組みも日本の中で知っている人が少なすぎると感じた。教師の学習する場もこんなにあるのに、実際知っている人は職員室の中でどれぐらいなのかと思う。経験した私たちが知らせていく義務があるとは思いますが・・・。
- ・ 学校という場所は活動を知らせる場に最も適していると思う。これを活用すれば、JICA や NIED・国際理解教育センターの活動ももっと評価される。いまでもすごすぎるが。
- ・ シニア海外ボランティアに興味がある方はたくさんいると思うので、期間や職種などもっと柔軟に対応していただくと広がるような気がします。

5. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

- ・ 7月・8月はかなり涼しいので、長袖長ズボンOKです。飛行機の中はとても寒いので、たくさん上着を持っていくといいです。
- ・ 雨はあまり降りませんでしたが、ウインドブレーカーなどをカバンに入れておくと便利です。
- ・ 蚊の対策は気持ちの問題ですが、電池で動くタイプのものなどいろいろなパターンのものを持って行きました。
- ・ 自分の係の仕事はまとめやすい用紙などに行く前に作っておくと便利です。
- ・ 水やビール、ジュースばかりで水分をとるので、お茶が飲みたくなりました。ペットボトルをスーツケースに入れておくといいです。
- ・ 青年海外協力隊へのお土産は、お菓子やレトルト食品が喜ばれます。帰りは自分たちで持っていったおやつなどを全部 JICA に寄贈してきました。
- ・ 荷物の重量がとても気になりました。はかりを持っている方に何度もお借りしてお土産を詰めました。
- ・ ガーナセディに換金するときに 100 ドル札がいいと聞いていたので、半端なドルは持って行きませんが、ドイツやガーナでもドルを使うチャンスはありました。少し持っているのもいいかと思います。また、ユーロも行き帰りに使うことがあるので、ある方は持って行ってください。
- ・ 教材化計画シートに沿って進めていけば、必ず学びは深くなります。
- ・ 毎日の振り返りは、今思えば素晴らしい！！自分一人ではできないので、しっかりと書いて毎日を振り返ってください。

6. その他全般を通じての感想・意見など

- ・ このような機会を与えてくださった JICA および NIED・国際理解教育センターに本当に感謝しています。学校の協力もないとなかなか難しい研修ですが、これは先生方チャレンジするべきです。この研修は心からすごいと思います。

以上